

フランネルフラワー

- 分類：セリ科アクチノータス属 耐寒性多年草
- 学名：*Actinotus helianthi* L.
- 原産地：オーストラリア

【特徴】

フランネル（布生地的一种）の質感に似ていることからこの名前がついたそうです。白にグリーンが入る花も、銀色の葉もさわるとふわふわなのがかわいいです。水揚げをしっかりとすれば1ヶ月以上持つので切花にもなります。草丈は30cm程度で、春から夏にかけて元気に咲きます。咲き終わった後花を摘み取れば、ほぼ年中咲きます。8月頃剪定すると秋に良く育ちます。品種「フェアリーホワイト」は岐阜県農業技術センターで育成されたものです。

【置場所】

必ず直射日光の当たる場所に置いてください。日光が当たらないと間延びし、花もつかなくなります。

【用土】

pH5以下の酸性土を好みます。酸度無調整のピートモスを7、鹿沼土を3の割合で混ぜたものを使うか、市販のブルーベリーの土やサツキの土などを使って下さい。

【水やり】

ポットの土は乾きやすいので、比較的にこまめに水を与えてください。土の表面が乾いたらたっぷり与えてください。

【施肥】

3ヶ月に1回程度固形肥料を与えてください。葉の色が悪くなってきたら、液肥等を与えます。

【花がら摘み】

咲いた直後は花の中心が緑色ですが、古くなると茶色になってきます。花が終わりに近づくと、花が閉じます。花びらが黄色っぽくなってきたら、花梗の付け根から切り取って下さい。

【切り戻しと植え替え】

7月までは咲き続けますが、暑くなると花が小さく草姿が乱れてきますので、8月に入ったら各枝を5cm程度切り戻してください。切り戻したら、一回り大きな鉢に植え換えます。根鉢は崩さないようにします。そうすれば、秋には新しい花がたくさん咲きます。

【冬の管理】

寒さには比較的強く、5℃の温度に十分耐えます。寒冷地では、できるだけ日のあたる室内に置きます。日光の当たる窓辺に置けば、冬でも咲きます。温暖地域で、屋外におく場合は霜が当たらない、日のあたる軒下などで管理します。冬の寒さに遭った後、2年目の春が最もよく咲きます。管理が良ければ3~4年生きますが、2年を過ぎると樹型が乱れてきます。

【病虫害】

ハダニが付いて、葉に細かい黄色の斑点が見られることがあります。また、5月頃にヒメマルカツオブシムシがつくことがありますが、害はありません。